



地域に貢献しました 一斉除排雪ボランティア

1月21日、2月4日に町内の一人暮らし世帯等を対象に一斉除排雪ボランティアが実施されました。美郷中学校、六郷高校の生徒から一般の方まで2日合わせて延べ774人の参加者が集まったこのボランティア活動。美郷町社会福祉協議会が主催し、毎年行われています。

それぞれの地区ごとの集合場所に集まった参加者は美郷中学生の号令で各家々に向かって行きました。

除雪の後は住民の方から「雪が詰まってどうしようかと思っていた、ありがとう」といった感謝の言葉が参加者の皆さんに送られていました。

子どもとの関わり方を考える 親力アップ講演会

1月23日、美郷町公民館を会場に越谷心理支援センター所長の秋山邦久氏を講師に招き「子育てを上手に楽しもう」と題して、親力アップ講演会が開催されました。講演に先立ち福田教育長が「保護者の皆さまも子どもとの関わりで迷ったり悩んだりといったことがあると思います。今日のご講演ではそういった事について解決のヒントを得ただけならと思います」とあいさつをしました。

講演では子どもや家族と言葉を交わす際には文脈(会話の背景や状況)を意識することが重要だという事や、家族のメンテナンスは定期的に行なうべきだといった、子どもとの接し方についての内容が、実際の事例や体験を混ぜながら軽快に語られ、参加者の皆さんも熱心に耳を傾けていました。



誰が一番遠くまで飛ばせるかな？ JALそらいく～折り紙ヒコーキ教室～

1月28日、町内3こども園の児童たちを対象に美郷総合体育館リリオスでJALそらいく～折り紙ヒコーキ教室～が開催されました。

折り紙ヒコーキ協会認定の指導資格を持った同社の社員らから、折り方や飛ばし方を習った児童たちは、良く飛ぶ紙ヒコーキに顔を輝かせながら、その後ろを追いかけていました。

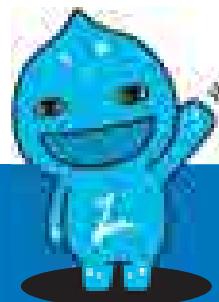


東京オリンピックを目指して ジュニアアスリートスポーツセミナー

2月14日、美郷総合体育館リリオスと美郷町南体育館を会場にジュニアアスリートスポーツセミナーが開催されました。

2カ所の会場に分かれて行われたこのセミナー。総合体育館リリオスでは保護者や指導者に向けて栄養指導が行われ、聖霊女子短期大学准教授であり日体協公認スポーツ栄養士である長嶋智子氏が講師となり「勝てる体作りは食事から」と題して、スポーツを行う上で発育促進期に入る児童の体作りを補う食事と栄養について、具体的な食材と効果などを学びました。

また、美郷町南体育館では児童や指導者に向けてメンタルトレーニングが行われ、秋田県スポーツ科学センターのメンタルトレーニングアドバイザーである、宇都友博氏が講師となり「試合などで実力を発揮できるセルフコントロール」と題して、実際に声を出したり、動いたりしながら緊張に負けないためのセルフコントロールについて学びました。



第1回 町議会 臨時会

平成28年第1回町議会臨時会が2月12日に開かれました。審議された議案は次のとおりです。

承認・可決された案件

- 専決処分事項の承認を求めることについて
- 美郷町議会議員の議員報酬及び旅費等に関する条例の一部改正について
- 美郷町町長及び副町長の給与及び旅費に関する条例の一部改正について
- 美郷町教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部改正について
- 美郷町一般職の職員の給与に関する条例の一部改正について
- 平成27年度美郷町一般会計補正予算第8号
国の「低所得の高齢者向けの年金生活者等支援臨時福祉給付金」の平成27年度補正に伴う予算の追加および、道路等の除排雪に要する経費の増額等について歳入歳出予算にそれぞれ45万8千3百11千円を追加し、総額1億1024万円としました。
- 平成27年度美郷町簡易水道事業特別会計補正予算第5号
- 平成27年度美郷町下水道事業特別会計補正予算第4号
- 平成27年度美郷町農業集落排水事業特別会計補正予算第4号

理解と合致

美郷町長 松田知己

風



JAL地域貢献活動「ウィンターキャンペーン～鶴の恩返し～」のオープニングセレモニーにてあいさつをする松田町長

語れるほどクラシック音楽に造詣は深くありませんが、同じ楽曲でも演奏者によって曲の雰囲気や違うところに、クラシック音楽の面白さがあると私は思っています。学生時代にクラシックギター部だったこともあり、バロック音楽、特にJ. S. バッハの曲をたまに聞きますが、やはり演奏者によって多少の違いがあります。

これは言うまでもなく、演奏者の楽曲に対する理解と感性

(表現)の違いによるものですが、一方で聴く側の理解(知識)や感性の違いも、実はその感じ方により作用しているように私は思っています。結果的に演奏に対する感じ方は、発する側と受け止める側の理解と感性の合致性が決めていくのではないかと思うところです。

さてこうした合致性、日常生活でも多くの場面で求められます。些細な事に感謝したり、逆に怒ったりするのも、その言動の根底にはそれがありません。これを行政で考えると、施策評価もそこに至ります。発する私どもと受け止める町民みなさんの理解と感性が合致していれば「意義ある施策」。一方、合致していなければ「意義の小さな施策」となります。また国と自治体との関係も同様で、理念と

予算を発する国と受け止める自治体が、その政策に合致性があれば評価も成果も生まれます。しかし最近、それに疑問を持たざるを得ない事例が生じています。「地方創生」についての予算です。

人口減少に関する新規施策の予算を国が手当てするとした地方創生について、予算付けの考え方を国はコロツと変えました。結果、これまでの説明で策定した「総合戦略」は、かなりの割合で国の交付金の対象外。予算という梯子を外されました。国の考え方と進め方には納得しませんが、「攻め」の施策について予算を得ながら前に進めるとすれば、国の考え方に合致させるしかありません。昨年十月に策定した総合戦略は、もう見直しをせざるを得ない状況です。

まさに平家物語にある「諸行無常」を感じますが、望むらくは国と自治体の理解と感性が合致して、結果、流行語大賞に入った「安心してください。」という結末になることを期待したいものです。